

2011 年度第 1 回 サロン 2002 理事会報告

- 【日 時】2011年4月10日（日）～4月17日（日）※昨年度は4/9に集まって開催
【会 場】ネット空間（メールの交換で議事進行しました）
【出 席】理事：中塚 義実(理事長)、本多 克己(副理事長)、嶋崎雅樹、高田敏志、田中俊也、宮明透
監事：笹原勉
オブザーバー：運営委員…岸卓巨・室田真人(会計・名簿担当)、宮川淑人(関西担当)、熊谷建志(ML担当)
旧理事…阿部博一、高橋義雄
旧監事…齊藤健司
注) 役員（理事・監事）に加え、運営委員、旧理事・監事にオブザーバーとして加わっていただいた。

【議 題】(5月8日の総会に提出できるよう、以下について議論する)

- I. 2010年度総括（事業報告及び決算）
- II. 2011年度準備（事業計画及び予算）
- III. 規約の改廃
- IV. その他サロンに関する重要事項

■議題 I : 2010年度の総括

1. 会費納入状況について

2010 年度の入会意思表示者は 158 名。うち、4 月 17 日時点で会費納入者は 144 名、未納者は 13 名、会費免除者（2009 年度 10 月以降入会）が 1 名。

未納者 13 名にはすでに何度か督促しているにもかかわらず、いまだ入金を確認できない。

最終期限を「総会前日」として個別に最後の督促に当たる。入金を確認されなかった場合、自動的に退会扱いとする（2010 年度から会員ではなかったことになる）。

<2011年4月10日時点での、“2010年度”会費未納者（13名）>

石田まどか、伊藤洋次郎、今泉龍太、梶田孝史、北岡真幸、齋藤律、庄田守男、杉沢幹生、多田寛、中曾千鶴子、藤岡知彦、水上博司、割出勇也

◆会費未納者問題について

「そもそも入会が確認できていないのに会員扱いしたことに問題はありませんか？ サロン2002への思いがない人は外せばいいでしょう。何度も催促しても払わないと言う人はそういう人です（たった3,000円ですよ）。入金できた時点からの途中入会扱いにすべきだと思います。そうしないとちゃんとお金を払って手続きしている会員に対して示しがつかないのでは？」との指摘があった。

この件は毎年話題に上っていることであり、2009年度末総会での規約改定は、「会費を払った者が会員」であるとの考えをより明確化したものである。

しかし、「志」に共鳴するサロン2002のネットワークはどんどん広げていきたい（退会者を減らしていきたい）」との方向性があり、「うっかりミスは誰にでもある」「会費未納によりサロンの連絡が届かなくなると督促もできなくなる」ということから、会費受け入れは年度末まで留保していた。

基本的には今後もこの方針で進めていきたい。

もっとよい方法があればご提案いただき、総会で議論したい。

2. 事業報告及び決算

年度末総会の時点では中間報告だったが、総会で最終報告ができるように、会計担当の岸氏の資料をもとに決算の確認をした。

2010 年度の各事業はおおむね終了したが、公開シンポジウム報告書は 2011 年度事業扱いとなる。決算報告案は別紙の通り。

総会までに、未執行分（未払い等）を執行し、2010 年度監事の齋藤氏に監査していただく。

<2011年3月14日時点での2010年度決算>

【収入の部】

会費受入	447,000円
寄付金	59,000円
雑収入	9,082円
前年度繰越金	196,358円
収入計	711,440円

【支出の部】

月例会補助	12,000円
プロジェクト補助	182,631円
(すべてシンポジウム補助)	
事務費	468,092円
(旅費150,000円、印刷製本187,575円、通信運搬23,642円、雑役務106,875円、消耗品0円)	
予備費	24,675円
支出計	687,398円

【繰越金】 711,440円－687,398円＝24,042円

(この金額にプロジェクト口座残高40,425円を加えて次年度繰越とする)

<参考：2010年5月8日時点での2009年度決算>

【収入の部】

会費受入	441,000円
雑収入	107,002円
前年度繰越金	108,105円
収入計	656,107円

【支出の部】

月例会補助	10,000円
プロジェクト補助	203,532円
(すべてシンポジウム補助)	
事務費	246,217円
(旅費0円、印刷製本114,800円、通信運搬32,140円、雑役務99,150円、消耗品127円)	
予備費	0円
支出計	459,749円

【繰越金】 656,107円－459,749円＝196,358円

■議題Ⅱ. 2011年度の準備

1. 入退会について (2011 年度名簿進捗状況)

3月22日(火)～4月22日(金)を2011年度会員募集期間とした(その後4月29日までに延長した)。

4月30日AM10:00時点での名簿原稿提出状況は次のとおり。退会の意思表示をしない限り会員資格を有するので、現時点で180名弱の会員がいることになる。

◆2011 年度会員としての意思表示をされた方 … 89 名

内訳：2010 年度会員で名簿原稿提出…64 名、名簿原稿変更なし連絡あり…5 名

：新規入会…20 名

伊田翔平 上野直彦 オスカル草葉 河本雅彦 久保英明 佐藤英男 佐藤真成 鈴木康司 関貴光 玉井茂 中川英治 原野千佳 Ben MABELEY (ベン・メイブリー) 河野博文 武藤豊 持永浩史 森政憲 森元俊太郎 安田英文 吉澤正悟

◆退会の意思表示をされた方 … 3 名：名波涼子、宮阪麻耶、嵯峨寿

2. 組織について

1) 理事の役割

2011～2012 年度理事会の役割を以下のように決定した。

＜理事会役割分担＞

中塚義実 … 理事長 : 総括
本多克己 … 副理事長 : 広報・ホームページ管理
田中俊也 … 理事 : 広報・ホームページ監査
高田敏志 … 理事 : 企画・公開シンポジウム
嶋崎雅規 … 理事 : 企画・月例会
宮明 透 … 理事 : 企画・出張サロン

2) 運営委員の選任

運営委員には若干の異動があるが、次に方をお願いする。

なお、事業担当運営委員をもう少し増員したい（関西にもう 1 名。関東にも 2 名ほど）。何名か候補者が挙がっているので、理事長が打診した上で、総会にて報告したい。

- 一 会計担当 … 岸卓巨・室田真人 → 6 月まで岸氏。その後引き継ぐ。
- 二 名簿担当 … 岸卓巨・室田真人 → 6 月まで岸氏。その後引き継ぐ（2011 年度名簿は岸氏）
- 三 メーリングリスト担当 … 熊谷建志
- 四 ホームページ担当 … 本年度は置かない（理事が担う）
- 五 月例会の運営その他の事業担当 … 宮川淑人 → ここを増員したい

3. 事業計画および予算

1) 月例会

理事長原案として、次の方針が示された。総会で引き続き議論したい。

- ・2011 年度は引き続き「育成期の指導」を取り上げたい。特に「指導者」の問題を取り上げたい。
- ・2011 年度はラグビーのワールドカップイヤー。「ラグビー」を大きく取り上げたい

2) プロジェクト（公開シンポジウム）

月例会に則した内容で、公開シンポジウムを組み立てていきたい。

また、東日本大震災の復興支援に関連するプロジェクトを立ち上げ、実行していきたい。宮川淑人運営委員の呼びかけで、被災したサッカー選手を受け入れるクラブを募集し紹介する「元気プロジェクト」が進行中。今後も様々な活動を展開していきたい。

3) サロンと目的を同じくする団体の事業への参加

「サッカーを愛する人にできること Football Saves Japan」の趣旨に賛同する旨をホームページ上で表明した。東日本大震災の復興支援がらみで、様々な団体と連携できる。積極的に探っていきたい。

また、昨年度末の公開シンポジウムを全日本大学サッカー連盟と共同で開催したように、既存の組織とのコラボレーションを試みたい。新たな分野が開拓できる。

4) ホームページの運営

ホームページはサロン 2002 の活動のアウトプットの柱である。「ホームページを見て興味を持ち、

入会しました」という会員も増えている。

しかし、いろんところで小さなミスが目立つ（リンク先が間違っているなど）。

負担や労力の面で問題があるのではないか。一方で、HP をもっと活用できないだろうか。

このような投げかけに対して、「きちんと HP 運営費用を計上すべきです。ボランティアでは文句も言えません。少しでもお金を払うことで責任感ももってもらえばいいし、今の状態ではサロン 2002 から文句言える立場、シックスは言われる立場にない。言える関係にしましょう！」との意見がオブザーバーから出された。

具体的な対応策は理事会では出ていない。総会で続きの議論をしたい。

5) その他

①サロン通信について

②サロン公式メーリングリストについて

「サロン通信」は、入会の意思表示をした方に送信している。「サロン2002会員各位」の文書も同様。会費納入が遅れている場合でも送信している理由は、「会費未納者問題について」にあるとおり。

ただし、「サロン公式メーリングリスト」については、入会の意思表示をし、かつ会費を納めた方のみのサービスとして区別している。自ら情報の発信者となることができるメーリングリストへの加入は、会費を納入して“正式な会員”となっはじめて得られる資格である。『会員名簿』を手にすることができるのも、会費納入者のみである。

会費納入の確認時期とメーリングリストへの登録の間に若干の時差が生じる問題が指摘された。改善の必要があろう。

4. その他

1) 2011年度のスローガンをどうするか

理事会ではよい案が出なかった。総会で議論したい。

参考までに、2009年度、2008年度のスローガンを挙げる。

2010年度はスローガンという表現は用いず、「“FIFAワールドカップ”と“育成期の指導”をメインテーマとする」として、月例会とシンポジウムのテーマを明示した。

<参考：2009年度のスローガン>

①組織の充実

- 会員情報のオンライン管理・自動化の可能性を探る
- 会員・会費・寄付金の考え方の整理

②月例会の充実

- 年10回の「ホーム」開催（それ以外は総会と公開シンポ）
- 「スペシャル版」の積極的開催（いわゆる出張等）

③他の組織、他の分野との連携

- 関連する団体、サッカー以外のスポーツ、スポーツ以外の分野との連携強化

<参考：2008年度のスローガン>

①サッカーにとどまらず、他の競技、他の分野への広がりを意識したい

②日本各地のサッカー史・スポーツ史をひもときたい

③女性会員の増加に努めたい などなど

2) 理事からの提案

特になし

■議題Ⅲ：規約の改廃

特になし

■議題Ⅳ：その他サロンに関する重要事項

特になし。

ただし、昨年度から継続で、次のテーマは取り上げたい（以下、2010 年度第 1 回理事会報告より）。

◆サロンの今後－事務局機能の強化と法人化へ向けて

以前も議論したことだが、サロンの潜在的な力をより大きなものにつなげていくためにも、事務局機能を強化することは必要。単なる無償ボランティアでなく、労力に対する対価を支払うべき。

サロン会員のさまざまな活動の事務局を、有給の“サロン職員”が担う形はとれないだろうか。

たとえば DUO リーグ、あるいはスキンプロジェクトなどの管理業務をサロンが担うなど。

利益を生む体質を作っていく必要がある。情報の金銭的な価値は大きい。

以上（文責：中塚義実）